

# 上田 貢太郎 9月及び2月 県議会 県政報告 — No.5 あげたこうたろう

県政事務所

発行責任者:上田貢太郎  
発行所:〒780-0025  
高知市愛宕山105  
電話:088-873-2381  
FAX:088-874-5559

## 主な質問項目

- ① 外国人材の受け入れ拡大  
② 高知の海曜日について  
③ フィルム「ミッショントリップ」について  
④ IOPプロジェクトについて  
⑤ 南海トラフ地震について  
⑥ 教育問題について

令和2年度2月議会において



て、日越友好議員連盟の会長であります、二階俊博自由民主党幹事長を団長と致します「日本ベトナム文化経済観光交流団」の一員として、尾崎正直前高知県知事ら、各界約1000名の方々とともに、ベトナム第3の都市ダナンに行って参りました。

ベトナムはアジアの中で、最も成長率が高い国でありまして、人口は毎年90万人から100万人のペースで増えており、国民の平均年齢は31歳とエネルギー溢れる国であります。

また、ベトナムは皆さんご承知の通り、大変親日的で、ベトナムが発展すれば、日本にとつて大き

そうした中、昨年4月に政府は、外国人労働者の新たな在留資格、特定技能を創設し、受け入れの門戸を広げました。現地で行われたシンポジウムでも参議院議員で外国人労働者等特別委員長の片山さつきさんから、政府の方針として、14業種に門戸を開いて34万5000人を受け入れる特定技能枠に関して報告がございました。全国の特定技能外国人は、昨年12月末で1621人と増加傾向は見られます。まだまだ少ないのが現状であり本県は4名にとどまっています。

今回の交流団の目的は、日越間の交流人口の拡大、地方への誘客、そして、日越政府間の連携の強化であります。



なマーケットになるばかりでなく、必ずやアジアの大団のひとつとなり、日本の労働力を支えてくれる、そういう国でございます。

省内でも数社が、今年新たにベトナムに進出予定であり、省内企業においても、関心は非常に高

## 外国人材の受け入れ拡大

日本経済を維持するには、外国人労働者なしでは成り立たない、また、少子高齢化が進む本県は、若い労働力の増加は見込めないことを考ふると、受け入れ拡大は重要であり、ベトナム等からの技能実習生及び特定技能者の積極的な受け入れ拡大は必要不可欠と考えますがご所見をお伺いします。

**A** 部商工労働長は、国内外で実施をされる各産業分野の技能試験等の開催地や実施回数が限られていたこと、送り出し国側のルールの整備の遅れなどが挙げられます。

県内の問題は、登録支援機関の登録が2月末時点で11件と支援体制がまだ十分とは言えないことが挙げられるが、昨年末から徐々に整ってきており、今後、特定技能就労者は増えてくると考えます。

**C** 定技能就労者の人材確保が進まない原因をお伺いします。



**Q** 外国人材の受け入れ並  
大については、これから  
我々は選ばれる国・県になら  
なければならぬと考えており  
ます。そのためには自治体だけでは  
なく国民一人一人の交流が何より  
大事となります。

高知県においては、他県には無  
い「よさこい踊り」を通して、ベトナム  
の若者に高知を知つてもらう  
きっかけを作る事も考えられ  
が、ベトナムとの交流や、インバウ  
ンド誘致をどの様に考えるか?

**A** 部 商工労働 長 知県外国人生活相  
談センターの設置や日本語学習  
支援、異文化交流会などに取り  
組んでいますし、次年度からは受け  
入れ事業所を対象に日本語支  
援も実施します。

また、外国人雇用実態調査を  
実施して、受け入れに関する課  
題・要望等を把握し、企業のニー  
需要を考慮した対応策を検討す  
るなど、県外への移住者受け入れ  
が有効と考えるが、外国人労働者  
受け入れの環境づくりに向け、ど  
のように取り組むのか?

高知市は、浦戸湾のんびりクルーズの観光客から要望が多かった、遊覧船の桂浜への寄港に取り組む予定だと聞いているが、浦戸湾や桂浜を活用した観光振興への期待について伺いたい。

A 観光振興部 長は、桂浜や龍馬像、坂本龍馬記念館、牧野植物園、卸売市場のグルメ、桂浜沖での釣り体験など、様々な観光資源があり、県としても、高知市が行う浦戸湾エリアでの取り組みを支援していきたい。

**A** 観光振興部長も、新足摺海洋館や各県の水族館と連携し、四国各地への集客に取り組みたいとのご提案をいただいており、議員のおっしゃる四国内の水族館との連携は、この提案とも合致しており、四県の連携で多くの観光客を本県にも誘致したいと考えます。

人と対前年比49・2%増で増加傾向にあります。

**A** 現在、ベトナムの観光振興部長2チーム6名がよさこいアンバサダーに認定され、彼らの地元や近隣国での普及の結果、今年のよさこい祭りには2チーム100名を超える踊り子が参加予定です。今後も「よさこい」を通じた取り組みにより、本県のインバウンド誘致につなげたいと考えます。